



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)特別養護老人ホームひまわり 新築工事	階数	地上4F
建設地	横浜市港南区日野南3-5486-23外	構造	木造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、準防火地	平均居住人員	180 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年3月 予定	評価の実施日	2017年12月17日
敷地面積	6,477 m ²	作成者	林 琢磨
建築面積	2,568 m ²	確認日	2017年12月18日
延床面積	8,518 m ²	確認者	佐々木 優



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 86%
③上記+②以外の 81%
④上記+ 81%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.6

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合 建物外部には、震災等の災害時に避難場所として利用できるよう、かまどベンチやピットトイレを設置し、建物内部には保育室・リハビリカフェ・交流スペース・研修センターを配置することで、地域の社会資源としての貢献や公共性の高い建築物を目指している。	その他	
Q1 室内環境 十分な換気量、照度を確保している他、グレア対策に努めることで快適性に優れている。	Q2 サービス性能 介護材料室やゴミ置場等、維持管理の為のスペースを十分確保している為、機能性に優れている。また、耐用年数の長い仕上材や配管・ダクトを使用している為、耐用性に優れている。	Q3 室外環境(敷地内) 近隣住宅街と調和した色合いやデザインの採用や十分な緑地を確保することで、良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー 年間熱負荷係数を抑制し、効率のよい設備機器を使用している。	LR2 資源・マテリアル 再利用できる可動間仕切り壁を設置することで、非再生性資源の資料量を削減している。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率を抑制している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

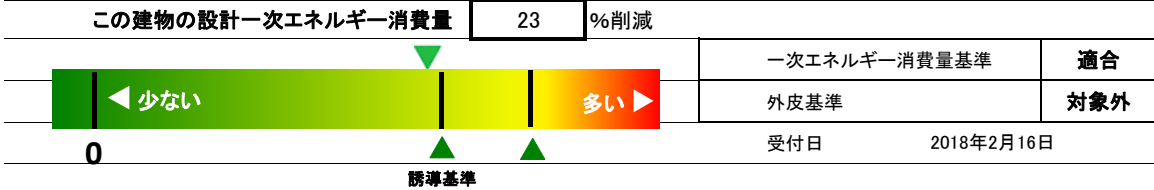


4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。 建物名称 (仮称)特別養護老人ホーム ひまわり新築工事

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) **【省エネルギー性能】 3**

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

①断熱性能を高くすることで、室内への熱負荷軽減を図っている。

③BEIm=0.77

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) **【快適・働きやすさ】 3**

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

⑩居室は庇にカーテンを組み合わせることで、グレアを制御している。

⑪規制対象外となる建築材料をほぼ全面的に採用し、居室の開口面積も十分に取れている。

■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) **【防 災】 3**

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

⑰耐用年数の長い仕上材や配管・ダクトを使用している。

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) **【地域・まちづくり】 4**

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

⑲周辺地域への圧迫感を軽減するため、庇や屋根の形状を配慮したデザインとしている。

⑳近隣住民も使用可能なオープンガーデンや交流スペースを設けることで、地域貢献に配慮した計画としている。

太陽光発電などの導入



太陽光利用

エネルギーマネジメントシステム導入

— —

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)